



平成 27 年 12 月 1 日

杉並区長 殿

杉並区NPO等活動推進協議会

会長 山本 啓

平成 27 年度杉並区協働提案の評価結果について

平成 27 年度杉並区協働提案について、下記のとおり評価を行ったので報告します。

記

1 協働提案評価員

氏 名	区分	備 考
ふくしま やすひと 福島 康仁	杉並区NPO等活動推進協議会副会 長、同協議会協働推進部会部会長	日本大学法学部 公共政策学科教授
ただ くにあき 多田 邦晃	杉並区NPO等活動推進協議会 協働推進部会部会員	区民公募
おおた ともこ 太田 智子		NPO等活動関係者（公 募）
ほりい ゆうた 堀井 勇太		NPO等活動関係者（公 募）
みはら きくえ 三原 紀久恵		団体推薦（東京税理士会 荻窪支部）
かねしろ あきとし 金城 景敏		団体推薦（公益社団法人 東京青年会議所）

2 協働提案一覧

(1) 平成 27 年度新規提案事業

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 杉並中小企業診断士会	空き店舗のデータベース作成と 商店街・創業者のマッチング事業	区民生活部 産業振興センター 商業係
②	特定非営利活動法人 HIVと人権・情報セ ンター	すぎなみレッドリボンプロジェ クト	保健福祉部 保健予防課 感染症係

(2) 平成 26 年度提案事業（継続）

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 チューニング・フォー・ ザ・フューチャー	すぎなみ戦略的アートプロジ ェクト	区民生活部 文化・交流課 文化振興担当
②	株式会社 トロア	杉並区内の障害者施設ネット ワーク基盤の強化	保健福祉部 障害者生活支援課 就労支援係
③	特定非営利活動法人 杉並冒険あそびの会	子どもプレーパーク事業	保健福祉部 児童青少年課 児童館運営係

3 協働提案の評価対象及び評価方法

(1) 評価対象

●提案関係書類の書類審査

（新規提案）①協働提案概要書②提案団体の概要③協働提案書④協働提案経費概
算書⑤事業概要図⑥法人等の登記簿謄本（法人のみ）⑦定款⑧決算書類
[平成 26 年度分]⑨納税証明書

（継続提案）①協働提案書【継続事業】②協働提案経費概算書③事業概要図

●提案団体・担当課による公開プレゼンテーション、質疑

●公開プレゼンテーション後の各部会員の意見交換

(2) 評価方法

- 「協働提案評価表」を使用して各部会員が評価項目ごとに ABCDE 評価する。
A=特に期待できる (5点)、B=期待できる (4点)、C=標準的である (3点)、
D=あまり期待できない (2点)、E=期待できない (1点)
- 各部会員評価表を集計し、以下のとおりの採点を評価の参考とする。
 - ・ 評価項目及び全体の平均点を出す。平均点を出すに当たっては、6人の平均点を算出
- 評価については、平均点に応じて以下の11段階で行うこととする。

A	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	D2	D3	E
特に期待できる	←	期待できる	→	←	標準的である	→	←	あまり期待できない	→	期待できない
5~ 4.45	4.44 ~4.15	4.14 ~3.75	3.74 ~3.45	3.44 ~3.15	3.14 ~2.75	2.74 ~2.45	2.44 ~2.15	2.14 ~1.75	1.74 ~1.45	1.44 ~1

4 評価内容

(1) 平成 27 年度新規提案事業

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 杉並中小企業診断士会	空き店舗のデータベース作成と 商店街・創業者のマッチング事業	区民生活部 産業振興センター 商業係

○ 評価結果

「C1」

○ 評価コメント

提案書類審査結果および公開プレゼンテーションに基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「空き店舗のデータベース作成と商店街・創業者のマッチング事業」にかかる「特定非営利活動法人杉並中小企業診断士会（以下「診断士会」という。）」および「杉並区区民生活部産業振興センター商業係」の協働提案実施事業について、「標準的である」と評価した。以下において、評価項目ごとの評価結果と若干の意見を付記した。

提案団体および区担当課の課題・ニーズ把握については、空き店舗の課題に取り組むことで、まちの衰退を防ぎ、公共的利益が得られるとして事業の必要性を評価した。商店街を活性化させたい商店側と、店舗の貸借について店舗創業者（貸主）の間の考えのミスマッチを解消しようとする事業である。ただし、区内の商店街というマクロ的な捉え方ではなく、区内の商店街でも相当の地域差があることにも配慮した、地域別（ミクロ的）の課題やニーズの把握を検討すべきであるとの意見が出されている。

設定された目標については、目標設定されている点は評価できるが、1年目としては高い、どのような展開されるか未知数の部分が多く、その実効性を不安視する意見がある。さらに、空き店舗数を単に減らす数的側面だけでなく、その商店街ごとに必要とされる店舗の種類などを含めたビジョンを持ち、中心市街地活性化のためのマッチングをもすべきであるとの意見がある。

協働の効果については、協働があつてこそ空き店舗の課題に取り組むことができ、診断士会の強みを生かした効果が得られる可能性がある。一方で、店舗創業者にこの事業の認知度の促進を図れる点ぐらいで、区との協働の有効性を疑問視する意見もある。

地域資源の活用については、商店街の活性化には地域住民を参加させ、さらに出店申し込み者を支援しマッチングすることが重要である。

区民満足度については、空き店舗問題の解消は商店街の方だけでなく、周辺住民にも利益があるものと考えられる。そのために、まずは先行事例（モデルケース）を作ることによって区民の理解を進め、区民満足度を向上させることを期待したい。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、創業支援のエキスパート集団として実績もあり、提案団体の有する経験知、専門知が十分活用されると判断した。ただし、事業そのものは初の試みであり、過去の実績からどれほどの実力が発揮されるかは未知数であると不安感を示す意見があった。

計画性については、事業計画等はできているが商店街の活性化自体が難しい課題なので、チャレンジ商店街の目標数がやや高いように思われる。1年目は商店街の数を目指すより、モデルとなる成功事例となりそうな商店街を数カ所選択すべきではないだろうかという意見が出されている。

経済性については、アドバイザー謝金と出店者支援アドバイザー謝金の相違が理解しにくい点、HP制作費等関連支出の金額が少ないなどの疑問点は残るものの、全体としては明確である。また、事業経費について、団体負担額が50%を超えており、本事業に関する団体の意気込みを評価する。

創造性・新規性については、今まで個別に創業者の相談を受けて行っていたものを、商店街も巻き込み、空き店舗情報も集約して仕組み化するという点では新規性はある。

継続性・波及性については、モデルケースを作れば、全区的な展開の可能性が高まると思われる。この仕組みを使って出店できた創業者をサービスの利用者（受身なまま）ではなく、活動の発展や継続に関わる側になり、さらに可能性が広まることを期待したい。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。

空き店舗の問題は大きな課題であり、提案団体と杉並区との協働する当該事業において若手創業者が診断士会に相談し、空き店舗を活用してスタートアップがはかれ、商店街も活性化するというモデルの構築を期待したい。

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
②	特定非営利活動法人 H I Vと人権・情報セ ンター	すぎなみレッドリボンプロジェ クト	保健福祉部 保健予防課 感染症係

○ 評価結果

「B3」

○ 評価コメント

提案書類審査結果および公開プレゼンテーションに基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「すぎなみレッドリボンプロジェクト」にかかる「特定非営利活動法人H I Vと人権・情報センター」および「杉並区保健福祉部保健予防課感染症係」の協働提案実施事業について、「期待できる」と評価した。以下において、評価項目ごとの評価結果と若干の意見を付記した。

提案団体および区担当課の課題・ニーズ把握については、患者報告数の傾向からも若年世代への対策が求められており、適切に課題やニーズが把握されている、区民全体としてもその解決が必要であると高い公益性が認められ、事業の必要性を評価した。

目標設定については、H I V感染症等に関する正確な情報に基づく啓発事業等の開催等が感染拡大防止につながるとのビジョンに基づき、目標設定があると評価した。ただし、3カ年での解決へのビジョンは明確。目標値の設定はもう少し具体的に欲しいとの意見や、啓発活動では目標設定、評価の指標が難しいのでアウトプットだけでなくアウトカムがわかるようにしてもらいたいとの意見があった。

協働の効果については、区のみでは限界が生じている点を十分補完できるものと考えられる。教育現場での啓発活動はNPO単体ではハードルが高く困難であり、協働は極めて有効と考える。すなわち、提案団体にとっては協働の効果で教育関係者への啓発、学校での若年層への啓発が容易になり、区においては団体が有するノウハウを生かせるなど、より効果的施策が可能となる。

地域資源の活用については、杉並区の学校施設などを利用して人的資源である保健教育関係者に講演し、自ら若年世代に啓発事業を実施し、若年世代を育成することは効果的である。

区民満足度については、感染症に対する知識・対策等を啓発し、感染者数、患者数の増加が止まる、または減少することで満足度が高まると思われる。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、提案団体は既に区からの委託でAIDS即日検査と事前・事後のカウンセリング事業を実施している団体である。ただし、他の協力団体もあるのでうまく役割分担できるかが重要であり、ピルコンとの協働により若年世代への新しいアプローチ方法を可能としている。

計画性については、1年目は「保健教育に関わる方に向けた啓発・周知」からスタートするなど、事業計画・スケジュール等が実現可能なものが示されている。ただし、イベント、講演会など多様なプログラムではあるが、実施時期が不明確な部分もあるとの指摘も出された。

経済性については、明確かつ適切になっている。今後の課題としては事業経費について、区からの持ち出しが60%を超えていることから、継続するためには段階的に区からの支出分を減少できる体制を築くことが望ましい。

創造性・新規性については、明確なビジョンに立って課題を解決するとの決意があり、ピアエデュケーションの可能性と、ピアリーダーの育成に期待感がある。もっとも、これは新規性といえるほどではないとの意見もあった。

継続性については、感染症予防という課題に保健教育関係者等に波及効果が出て継続してできると評価できる。さらに、啓発活動を受けた若年世代から新たな協働提案が立ち上がることによる発展を想定している点が新しく期待できる。それを支えるのは、区内の大学との連携が重要である。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。

子供達を守ることは正しい知識を持たせることではあるが、HIV等感染症についてはデリケートな問題であり、ノウハウのある提案団体との協働により丁寧かつ大切に普及啓発が必要である。その意味で、効果測定指標については検査の受診者数以外にも検討していただきたい。

また、啓発には性感染症の予防だけでなく、望まれない妊娠・中絶の予防も含まれると想像するが、根っこは同じところなのでそれも盛り込んでほしい。

さらに、リボン運動にはピンク、オレンジ、グリーンなどさまざまなものがあるが、その認知度には差があり、他の運動との違いを見せる工夫が必要である。

(2) 平成 26 年度提案事業（継続）

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 チューニング・フォー・ ザ・フューチャー	すぎなみ戦略的アートプロジ ェクト	区民生活部 文化・交流課 文化振興担当

○ 評価結果

「B3」

○ 評価コメント

提案書類審査結果および公開プレゼンテーションに基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」にかかる「特定非営利活動法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー」および「杉並区区民生活部文化・交流課文化振興担当」の協働提案実施事業について、「期待できる」と評価した。以下において、評価項目ごとの評価結果と若干の意見を付記した。

提案団体および区担当課の課題・ニーズ把握については、数多くのギャラリー、サポーターの巻き込みが徐々にでき、初年度の実施の中で新たなニーズや課題を把握し、事業計画が作成されていると評価できる。ただし、ITスキルのサポートについても盛り込んでほしいとの意見がある。

目標設定については、ギャラリー登録件数、サポーター数について目標値を設定している点は評価できる。

協働の効果については、協働によりアーティスト、ギャラリー双方からの信頼感獲得などの効果も登録者の順調な増加に寄与し、まちなかギャラリーの登録数の増加、文化事業の底上げ等の効果が得られると評価した。

地域資源の活用については、地域のなかで活動しているアーティストや、ギャラリーという地域の資源が、当該プロジェクトを通じて新たなつながりができ、今後他の地域資源も取り込んだ発展が期待できる。

区民満足度については、区民全体の満足度という点では、普通であると評価した。ただし、横のつながりがなかったアーティストがウェブサイト等によりつながり、コラボやマッチングができるようになれば、より区民の満足度が高いアートが届けられる可能性があるという意見があった。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、これまでの経験、実績を活かせば次年度の事業に十分活用できると評価した。ただしITスキルがボトルネックとなっている。ホームページの開設により区内でのアートイベントが10月から検索可能になり、次年度は運営効率の改善等をしてほしい。事業の拡大に伴いサポーターやボランティアの活用が重要になってくる。

計画性については、情報収集を早めにする、ITのサポートによる負担は他のNPOとの連携により支援等と事業計画を的確に行うように努力している点は評価できる。

経済性については、自立の可能性を考え、協賛金の獲得はもちろんのこと、その他の可能性も見据えての活動となっていると評価した。ただし人件費の比率がかなり高いため詳細な内訳もあったほうがよいとの意見があった。

創造性・新規性については、まちなかギャラリーの質の向上、隣接区のアートイベントとの連携等積極的な内容になっている。関係者マッチングイベントや「アートコンシエルジュ（仮）」などは今年度の活動を土台としたステップアップの活動であり、期待したい。

継続性については、まちなかギャラリーの登録が増えれば区内全域への効果が期待できる。ただし、地域ブランドの開発・拠点を長期的な目標にするのであれば、それに合わせた体制やストーリーを組んでいくべきという意見があった。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。

杉並区をアートなまちとして構築するという発想は評価できる。もともとデザインを得意としこれまでも区の制作物に関わってきているだけあってPR、制作物の質は高い。アーティストやギャラリーの掲載数が増え、検索性なども高まれば、認知促進や集客に有効な手段となることを期待したい。ただし、印刷物の発行に加え、サイトと紙媒体を連動させる取り組みも必要である。

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
②	株式会社 トロア	杉並区内の障害者施設ネットワーク基盤の強化	保健福祉部 障害者生活支援課 就労支援係

○ 評価結果

「B3」

○ 評価コメント

提案書類審査結果および公開プレゼンテーションに基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「杉並区内の障害者施設ネットワーク基盤の強化」にかかる「株式会社トロア」および「杉並区保健福祉部障害者生活支援課就労支援係」の協働提案実施事業について、「期待できる」と評価した。以下において、評価項目ごとの評価結果と若干の意見を付記した。

提案団体および区担当課の課題・ニーズ把握については、工賃のデータベース化はでき、今後、障害者施設の運営に個々の課題を顕在化し、自ら改善できるように計画している。障害者の生活向上のための成果に期待したい。

目標設定については、目標値の設定事由が不明確、根拠が不明である。その施策で目標とする工賃額を実現できるのかは少しわかりづらかった。

協働の効果については、協働したことで、すぎなみ仕事ネットの機能強化、販路拡大や売上向上等の効果がでるのではないかと評価した。

地域資源の活用については、障害者施設で、その職員の知識・技能を向上させ、また地域の協力者を増やすという、資源を最大限有用に使って事業を実施している。次年度もさらに活用を図れる。ただし、すぎなみ仕事ネットへの負担が大ききように思われるので新たな地域資源、地域人材の活用を図るべきではないかとの意見があった。

区民満足度については、障害者施設で働く人、家族、施設職員の満足度は高いと予想され、工賃の改善ができれば満足度が向上すると予想し得る。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、これまでの経験、実績を活かせば次年度の事業に十分活用できると評価した。コンサルの手法を活かし、障害者施設利用者のやりがいと工賃アップの仕組みをつくるアプローチは画期的であり、かつ実現力も高い。

計画性については、今年度は計画に沿って実施されつつ、調査により新たにわかったニーズや課題に対して柔軟に計画外追加を行ってきたと思う。来年度の目標や事業内容も明確になっている。

創造性・新規性については、コンサルの知識を生かし、さまざまな可能性を実施して、売上・賃金が上がるように施設の関係者に努力してもらおう。

継続性については、工賃率を上げるためのボトルネックが、事業所ごとに潜在的な課題がある。信頼関係の構築における密着性が事業の核となっていくと予想し得る。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。

第三者として、各施設から独立したコンサルであるからこそ見えてくる課題やハブになって各施設をつなげられるというメリットがある。調査フェーズから実際に工賃を上げるための施策の実施に入ると、さまざまな課題や障害に対して、来年度は実効性を出すことができるかに注目したい。

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
③	特定非営利活動法人 杉並冒険あそびの会	子どもプレーパーク事業	保健福祉部 児童青少年課 児童館運営係

○ 評価結果

「B3」

○ 評価コメント

提案書類審査結果および公開プレゼンテーションに基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「子どもプレーパーク事業」にかかる「特定非営利活動法人杉並冒険あそびの会」および「杉並区保健福祉部児童青少年課児童館運営係」の協働提案実施事業について、「期待できる」と評価した。以下において、評価項目ごとの評価結果と若干の意見を付記した。

提案団体および区担当課の課題・ニーズ把握については、新規の利用者が増え、出前プレーパークの実施希望も出ているなどニーズがあるものと評価した。さらに、一歩進めて、常設化や現在の開催地域以外の地域のニーズにどうこたえるかが今後の課題である。

設定された目標については、次世代プレーリーダーの育成その他、具体的な目標を設定しているが、利用者などの集客人数のアウトプットの目標設定など、定量的な評価指標が欲しい。

協働の効果については、区と連携することで効率良く公園使用許可、火の使用許可などができ、事業に対する認知が図られるなど、参加者が増え成果が出ていると評価できる。公園等の管理者である区と協働することで、提案団体は事業が拡大できる。区はそのノウハウを蓄積でき、単独で行うよりも効果が上がる。結果として、次世代の育成や児童青少年課職員への育成なども、継続により効果が見込まれる。

地域資源の活用については、公園や児童館などの施設の活用を利用した活動であり、地域資源を有効に活用している。地域人材として会員、ボランティア、プレーリーダー等が活用されているが、さらなる増員が求められるよう。さらに、これまで実施してきた公園以外の公園で実施できるような場所があるか調査、検討する必要があるとの意見も出された。

区民満足度については、プレーパーク等が行われている地域では区民の満足度は向上していると思われる。協働により、さらに多くの区民がプレーパークに関わることができ、区民の認知度が上がり多くの人が体験できれば満足度は上がると思われる。また育成講座や出張プレーパークでさらに受益者が広まることを期待したい。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、長年の運営実績があり、実施を予定している内容に活かせるノウハウがあると判断した。提案団体は長年にわたり活動し、知識・経験等を生かしながら事業を実施し、次年度も、地域拡大のために多くのプレーリーダー等を育成してほしい。また、団体が法人化したばかりなのでこれから事業を拡大していく上で団体の組織基盤の強化が重要であるとの意見が出された。

計画性については、次世代養成講座の計画も具体的になっており、今年度の事業は計画通りに行われ、次年度の計画も実行可能なものと評価した。ただし、出前プレーパークについては児童館にこだわらず、広く区内施設で実施するなど拡大を求める意見もあった。

経済性については、事業経費について、区からの持ち出しが90%を超えており、継続するためには徐々に区からの持ち出し分を減らし、自己資金の確保は重要となる。また、予定経費は予定収入にあわせて作られるので、報償費・交通費等参考となる基準を明示してほしい。

創造性・新規性については、多様な外遊びにより子供達の実体験を増やし、プレーリーダー等の育成により多く子供に広げられる将来性がある。

継続性・波及性については、次年度以降の活動の実施箇所数増の印象が薄いとの意見があった。自分たちが主催で行う実施箇所を増やすのか、出張で他地域のやってみたい人たちを支えるのかで種の蒔き方も違ってくるのではないか。今後の展望として隔たりなくさまざまな家庭にアウトリーチしていくことが可能な事業をどのような課題解決につなげていくのかさまざまな可能性がある。それを支える運営者・会員・ボランティア・プレーリーダー等の充実が将来的に発展、継続する可能性を握っている。さらにネットワーク化により効果の波及も期待できる。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。

プレーパークに子供の付き添いの保護者を巻き込むことにより新たな展開の可能性があり、「世話人」的役割など保護者へ期待できる役割を限定せず、この事業を推進するために力を発揮してもらうことが期待される。

5 杉並区協働提案評価集計表

別紙のとおり